

第16回 神戸女学院大学 絵本翻訳コンクール 優良賞

関東国際高等学校 3年

青松 莉子

あるひ、とつぜん。

とつぜん それは やってきた。

ほんとうに とつぜん。

おもいがけず。

はじめは いなかったんだ。

おはよう、サボテン。

いち

にの

さん

しゅー

えんぴつ。

えんぴつ。

えんぴつ。

いつもと まったく おなじ。

あああああああー。

うううううう。

ぐるぐるぐるぐる。

ぺっ！

したへ。

したへ。

よこへ。

よこへ。

らんらん...

...らんらんらん

はじめは、 おとこのこと サボテンだけ。

おとこのこには いえが ある。

やねと

てすりと

みずたまり バケツ。

にわの ホースと しばふ。

そして、クチナシの はな。

ゆからはじまる はな。

ゆり

ゆり

ゆり

あからはじまる はな。

あすたー

あすたー

あすたー

シャンデリアに、 だんろ。

それから たくさんの ほん。

よっつの かわいい フリスビー と

たいせつに している わしの はね

ピアノも ある。

だ・だ・だ・だ・だーん。ちがう。

だ・だ・だーん。ちがう。

だ・だ・だ・だーん。これだ！

おとこのこは ぜんぶ もっている。

さとうを スプーン さんばい いれた こうちゃも。

でも まだ なにかが たりない きがする。

それは・・・

・・・いったい なんだろう？

たいくつな とき、

おとこのこは パンくずを かぞえる。

・・・じゅうななと よんぶんのいち

じゅうななと にぶんのいち・・・

ちりとり に あつめて、

だいどころの ごみばこに はこんで、

あおい そらを ながめる。

つくえの うえを かたづけよう。

えんぴつ。

えんぴつ。

えんぴつ。

それか かくれんぼを しよう。

「もういいかい、さぼてんくん！」

おとこのこは サボテンに さされたことが ない。

でも きゅうきゅうばこを もっている。

まんがいちの ために。

はさみ。ばんそうこう。ピンセット。

それから ちいさな ほうたい。
まんがいち なにかが おきたときの ために。
でも・・・
・・・それって なんだろう？

きのうも きょうも あしたも、
まいにちは すすんでいく。
あーとか うーとか さとうを スプーン さんばい。
それから ひが しずむときの おー。
おやすみ、サボテン。
おとこのこは あおむけに ねころがって、めを とじる。

そして・・・

・・・ねむりに おちる

あるあさ はやく めが さめた。
なにかが いつもと ちがう。
おはよう、サボ... いたっ！
いち
にの
さん
しゅー
おい！

えんぴつ。
えんぴつ。
え？
あれ？

「こんにちは」と おとこのこは いう。
「だれか いるの？」
でも・・・
・・・いったい だれだろう？

きょうは やることが たくさん ある。

それって いいことだ。
おとこのこは なにかが おかしいことを わすれかけていた。

でも・・・
アネモネ
アネモネ
あしあと！

あ
あ
あめ
あさ
あしあと
・・・『クマのあしあと』
クマだ！

・・・『クマは　きのみをたべて　ほらあなにかくれる』
かくれて！

「じゃあ、　かぞえるよ！」
クマと　かくれんぼするのは　はじめて。
なんかいまで　かぞえればいいのか、わからない。
だけど　おとこのこは　かぞえる
かぞえて
かぞえて
...よんせんはっぴゃくきゅうじゅうなな、きゅうじゅうはち！
もう　かぞえきれない。
「もういいかい、みつけにいくよ！」

「み一つけた」
おとこのこはささやく。
クマは　かためを　あけた　「

こんどは　きみのばん！」って　おとこのこ。

クマは　もうひとつ　めをひらいた。
「じゅうまで　かぞえてね！」
おとこのこは　はしっていった。

「すごい！
みつかった！」

「それに・・・

・・・ケーキも！」

「ぼく、とんでるよ！」
ぼ————く　とんで————る————！

はじめは　いえに　おとこのこ　サボテンだけ。
ぜんぶ　きちんとしていた。
でも　いまは　そうじゃない。

ほんが あちこちにちらかって、
こわれた フリスビーが よつつ。
タカのはねも すこし よごれてる。

そして クマといっしょ。

ぐるるるるうううあああ——！
がうーるるるるるーううううーああああ——！

「おやすみ、サボテン。」
「おやすみ、クマ。」

おとこのこは また ねむりにつく。
クマの おなかの うえで。

とつぜん それは やってきた。
ほんとうに とつぜん。
おもいがけず。
さいしょは いなかったんだ。